

西生田小「世界に酸素を」

川崎市麻生区の市立西生田小学校(白井成幸校長)の1年生から6年生までの約930人が19日、シラカシなどの苗木を校内に植えた。植樹を通して愛校心や、自然を大切にする気持ちをはぐくんでもらう狙い。(鴻谷 創)

同校では、総合学習の一環として、3年生と5年生の児童が近くの麻生区市民健康の森でドングリ拾いや、樹木がどれだけ二酸化炭素を吸着するかの測定など、環境学習に取り組んでいる。

世界各国で植樹活動をしている横浜国大名誉教授(植物生態学)の宮脇昭さん(82)も参加し、児童に木を植えることは、野鳥のためだけではなく、人間の命を守るためでもあることを知ってほしい「など」と呼び掛けた。

苗木は平塚の社会福祉法人などから寄付を受けた。児童はシラカシやカンツバキを中心に約千本の苗木を校庭を囲うように植樹。宮脇さんらから「やさしく土をかけて」などアドバイス

命を守る1000本植樹



シラカシなどを校内に

スを受けながら、水につけた苗木を丁寧に植えた。保た苗が大きくなって、水や除草のため、最後にわらに酸素を送るのが楽しみら載せた。最後にわらに酸素を送るのが楽しみら載せた。最後にわらに酸素を送るのが楽しみら載せた。

参加した5年生の渡辺有

宮脇さんらからアドバイスを受けながら苗木を植える児童

川崎市麻生区の西生田小学校

